増補
頭書

# 訓蒙圖彙大成

七

加3
467
7

# 頭書増補訓蒙圖彙巻之十四

## 龍魚

此部ハ海水川谷よりむ
りろくの龍蛇魚鱗をもるを

○蛟ハ龍の角なし
りのかり四足あり
せかう青まだらふ
こなし綿のごとく水
中又深山幽谷にを
むかり

○龍ハ鱗虫乃長也
せかりふ八十一の鱗あ
九この数をそなへり
よく雲雨をかこを

蛟

川上氏極

○螭は蛟よりも角なし龍にあてゝ黄あり

○魚虎一名土奴魚といふ海中にありてよく潮をふくよりく城門小此魚とつるゝ火災をさゝるのゝなりといふ

○鯨は海中の大魚なり浪を鼓して雷とす一沫をいくゝ雌を鯨と雄を鯨といふ

龍
たつ

○鰐はかゝらに大なりて四足あり口大き人をのめば海上ふくく鱷同

○鯪はくゝら鯉なりて陵を穿して居るよくく鯪鯉といふ四足あり背鬣の如く鱗ありて鉄のごとし

○鯛は棘鬚魚と云水腫を消し小便を利し痔を治し上氣虚労を治す但

螭
ちあまもう

産後百余日のあいだ
くるしむべし　若あ
やまりて食すれば必
死す
○鯖は温痺ふう
韮と同しく煮て
食すれば脚氣煩
悶を治し氣力をま
す
○鰺は水腫を治し
痢疾を治す
て尿をるものなり
ふだんつゝ
○鰷は煮て食すれば

魚虎
ぎょこ
ちゃちゃかこ

鯨
くじら

うるひとやあ胃をあ
たゝめ冷涼をとゝむ
鮒魚同
○鯢は中をあたゝめ
氣血をまし多く食
べゝ癒れば発
し脾湿をうごか
し膝を利わるゝ
○鰐は婦人難産
にこゝろやきみゝく
酒にてをねりて
をのべば産しやすし
文鰐同
○鰕は五臓をあたゝ

鯪
穿山甲

鰐
わに

ひ筋骨をほ〜脾胃を和をあく食
ちくこう〜
○鮭ハ一名過臘魚を
いふ鮭ようるハ非也
○鰶ハ胃をあくめ
人を益〜痢とやむ
多く食をまハ風
熱をうごか〜ひさを
発をと
○花魚ハ今ハ人ろ
だひかりハいちぬさ
いともいふ
○黄橋ハ今ハふる

ちをこいかり
○烏頬魚ハ今ハ
ちをこやなぎなり
○梭魚ハ五臓をちぎ
ろひ肌をうるか〜
氣力ハ甚し積ハ
治し虫をころを
○鰈ハ王餘魚とも
比目魚ともいふ虚を
ちぎろひ氣力をま
を多く食をれど
氣ハうごかを
○海鰻ハ五痔湿痺
面目うそぶを脚氣

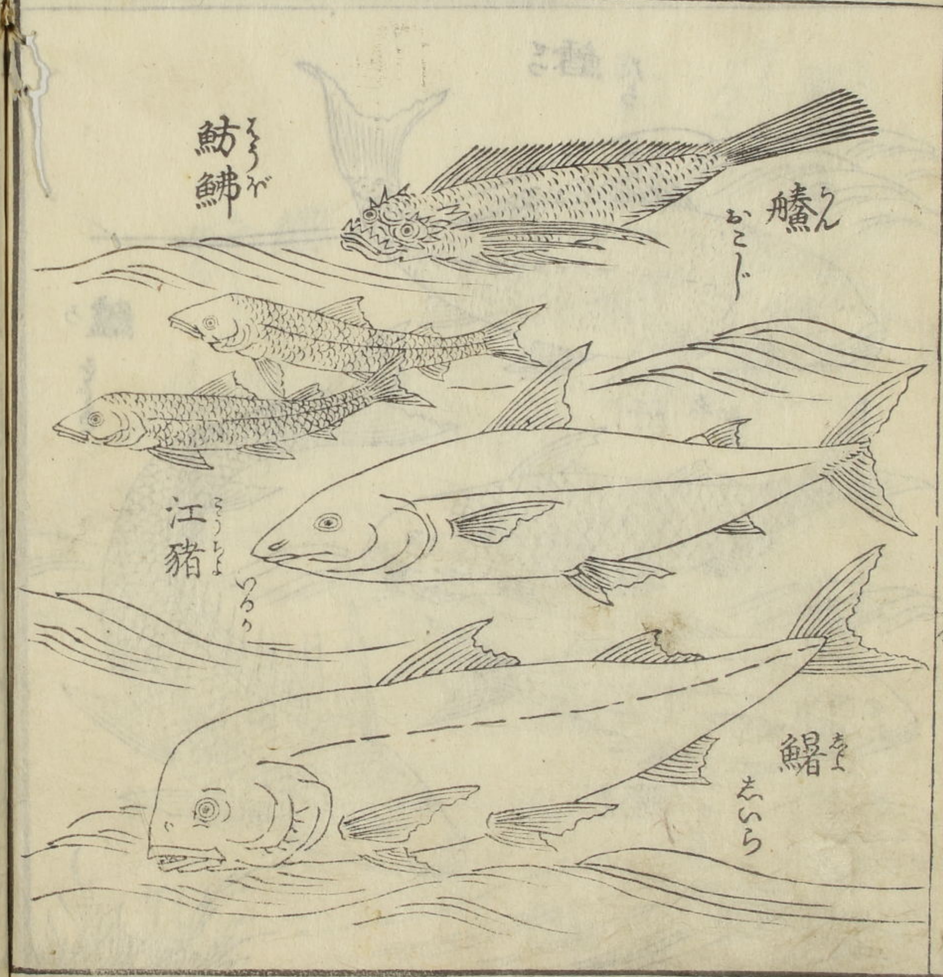
風氣ふうきこゝ女
の水氣わるふう
○鯛ハ人ゝて肥をゝ
やゝかゝちろ氣食を
はゝと鰯魚同
○鮹ハ胃ゆひゝさ五
臓と利ゝ人ゝとゝく
肥をゝやゝかゝらゝむ
○江鮭ハ胃をわゝめ
中と補ハ多く食を
まゝば瘡を發をゝ鱠
魚とハゝ水鮭ゝと
書かり
○馬鮫ハ一名章魚

とゝかちゝさゝるもの紙
青菜とハゝさゝ
かり章魚擺錫同
○鱈ハ風をちり酒と
さゝかゝ煮て食すを
ハゝ水腫を治ゝ小便
を利を
○鮞ハまゝの鮹の而
にゝなゝゝう ゆゝゝち
がらハゝ いせゝゝ
ゝふゝ をゝゝちゝハ
つゝも同物異名也
○鱸ハ五臓とちゝさゝ
ひ節骨を益腸胃

を和し水氣を逐
ひて食べるを癖
癖を物いろ
○鯉は生は膈をきよ
くし免は脾胃をた
のもべく食べるを益
とうごうを
○鱔は虚労をおぎな
ひ脾胃をすし腸風
泻血を治し氣力を
ほどこして肥をを
やなうしむ
○魴鮄は鮒に似く
色あをし一名藻魚也

もつて
○江豬は脯をなして
食べるを虫をとり
瘧を治をし海豚と
も書なり
○鰐は其性未考
秋の末は多くなる
○鱣は長二丈ばかり
尻ばかりせるふ
三行あり鼻おく
ちくひげあり玉版
魚同
○鮫は首鼈は似て
脚なく尾の長さ尺

余わらひ養ふ
皮は刀の柄さやに
はるなり
○鮒は鮒鯽と似る
是小児のそひぶふ
のみなどを用ふ
○鱠殘魚は名王餘
魚とも呉王船中
にて鱠と海にとる
小魚とも名とり今の
王餘魚これなり
○鯽は鯉に似く
色くろし五味を合
たて煮て食らふべ




虛羸をつくる中
とわくめ氣代ぐ
し下痢腸痔を
やむ專に合しても
つりのこみして胃
よくちく食べぐ
らぐろ代つくどり
中とものくさぐを
ものを
○鰊は水腫を治し
小便を利し下血ぐ
つくこのつくに葱
と同しく煮て食
たべし

○鯉い頭と尾とうるまぐ鱗ふ大ふかしこれを三十六鱗わり煮て食をきい欬逆上氣黄疸を治し渴水腫を治す

○杜父いしもちともうしぬとびともみふぐとそひこをいへり五臟とわざかひ脾胃とわをゑ杜父いりうをも土鯽土鮒土附同

鯽ふか

鯉こい

鯉こい



○鮒い虛勞とわざあつの油ぶとりくすりぶふりそぬすり

○鱓い中とわざかひ血をまし虛とおきるひさんこのわく霧と治す

○鰻い虫とろし瘡を治し脚氣腰腎のわるさの濕痺を治し陽とうとく

○黄鱔いわく食すべしぞ脾胃とそんし洩痢を一名黄顙

杜父ぬとび

ふぐ

鮒はと

鱓やつ

小さき鱓とと

鰻まん

鰻鱺魚同

魚とゝ

○鰌ハ中とわゝ毒気とまり酒ハ酒ハ
かゝるとやめ痔を治す

○金魚ハ藻のうちに生ゝ茸平毒也
久痢を治す銀魚
朱鯉朱鮒わり

○年魚ハ煮て食
をゝ憂とやめ胃
とわゝめ冷涙を止

○鰍ハ眼わゝ鰍と
ゝづくゝ又一名赤眼魚
とゝ

○鱭魚ハ火とゝを
けゝ痰とゝぞゝ疾と
殺ゝ瘡ゝとゝを
多く食をゝを

○鰯ハ能毒いまゝう
ゝびゝのゝゝゝ鰤
とも書わり

○河豚ハ虚をゝぞゝ
ひ湿とゝを腰脚
とゝさめ痔とゝを
虫ゝとゝを魚を
大毒わり食べゝゝ

○鰒ハ功能いゝゝゝ
ゝびゝゝゝゝ

○小鯛の鱧のかさりのかり切能ともに同し

○鱵の耳平毒多し あまた食をまい疲病とやすを針魚同

○鱒の胃をあつ〻光中を和を

○鰕の鼈瘕を治し 痘瘡ふつけくよう 陽とさんふし乳を通ど小児食をまい足ようくなる

蝦同

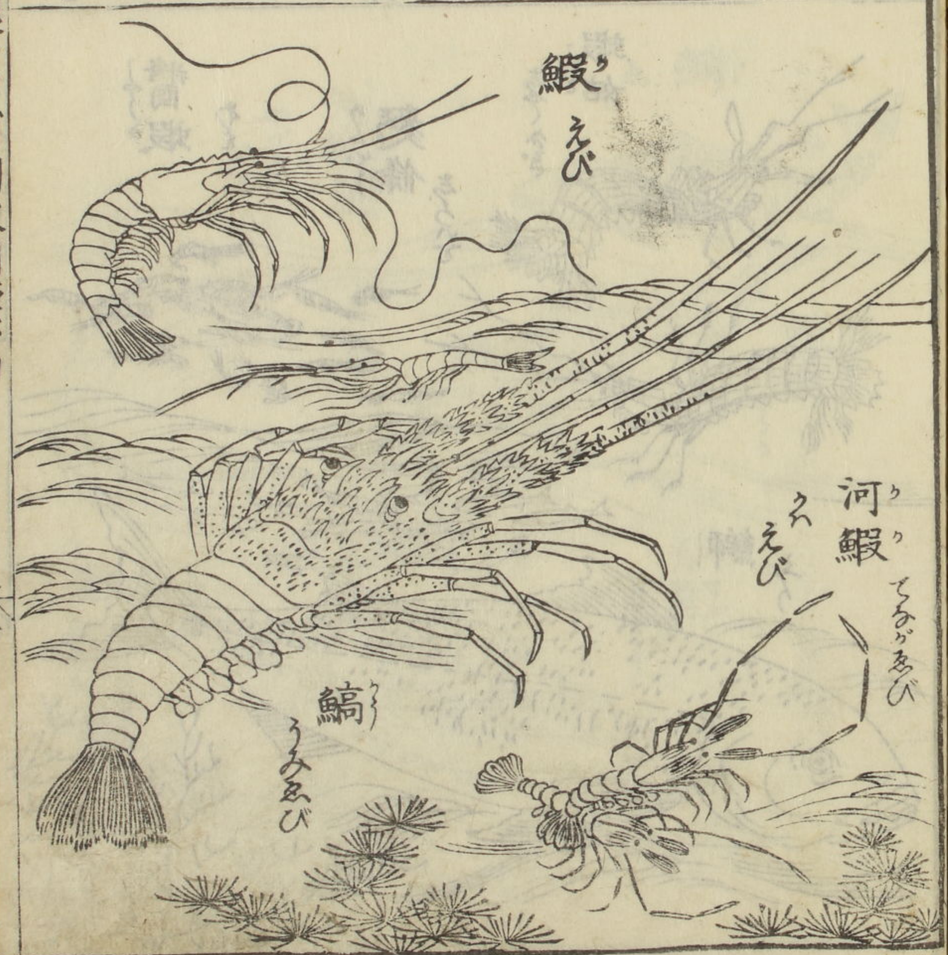
○鯔の鮓ふて食すまい虫くひたる治し 頭のさんふ治を紅鰕 龍鰕 海鰕同

○河鰕 くろえびと俗ふてあかえびとも

○醤蝦 えびのこまかるりのかり苗蝦 線蝦 泥蝦ともく

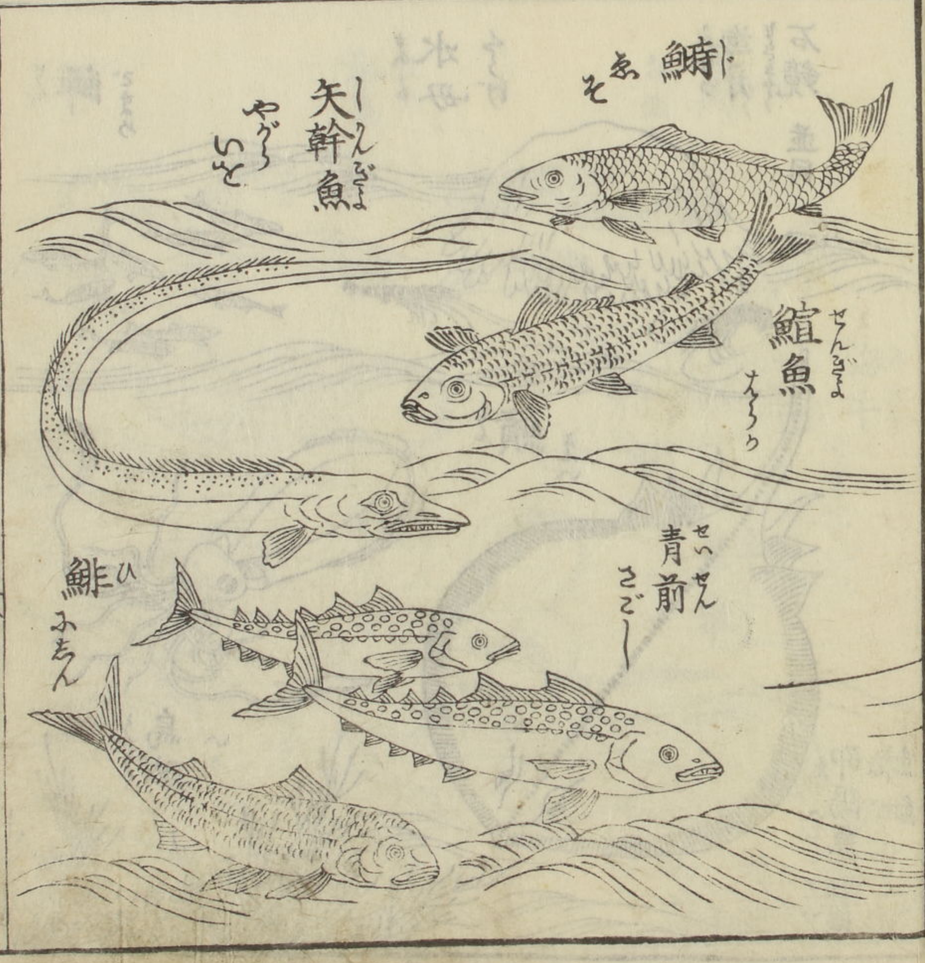
○麪條の中をゆく 一胃をとこやふ 水と利し 歓をやむ

○蝦姑 えびのこと



ひろう海馬とて〻ろ
この事ゝ産婦ゝ
ふるとそれゞ平産
をとゝろ
○鰤ハ肝と利〻血
をぞぐるゝ脾胃実
するのいと〻事
あり
○鯖ハ虚労をぞぐる
ふ油ゝとりてやけど
にゆりて妙なり
○鱚魚ハ腹赤ゝも
ゆくゆりとゝろの魚
と帝ふ獻ぜ〻事

ある
○矢幹魚ハ〻もに
仰く色あ〻腸症
のどに食つまると治
○青前魚ハ諸病ゝ
いまど馬鮫のちの
さたりのゆり
○鯡ハ能毒つまび
らゝゆゝど猫の病と
いゝを
○鱆ハ鼠頭魚乃
ちのさたりのゆり能
毒ゝまぐつまびゝゝ
なゝど



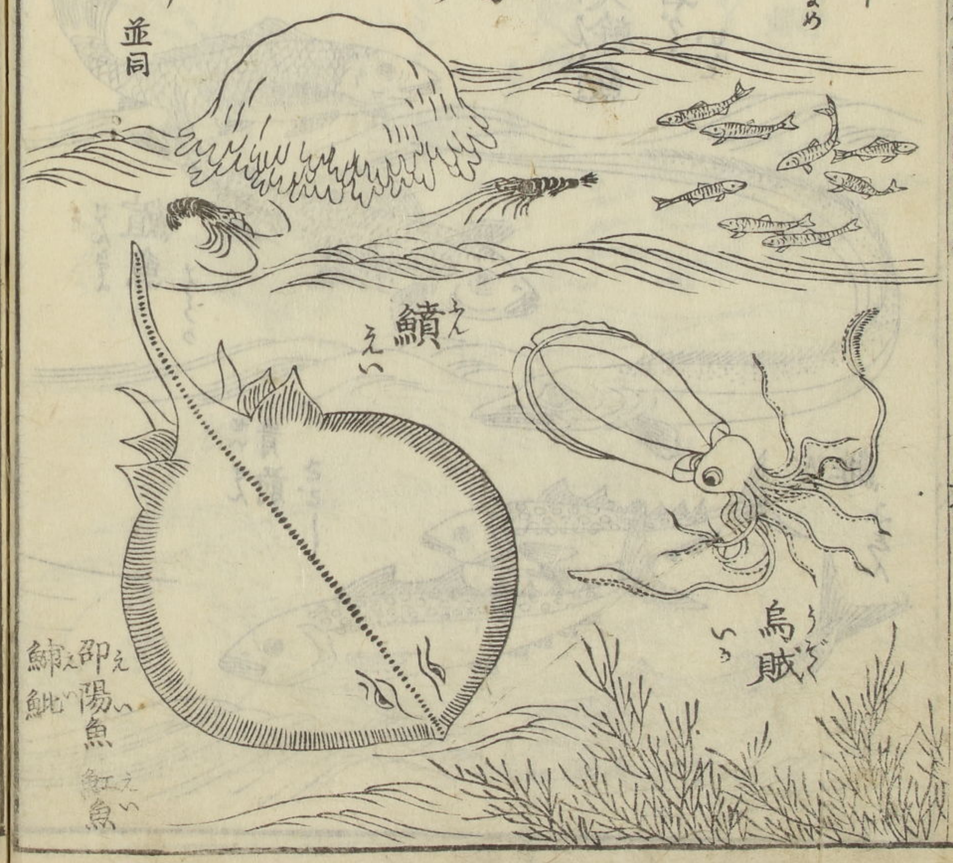
○水母ハ婦人の虚損積血こしけ小兒の丹毒ヤけとふ狂て妙あり

○烏賊ハ氣をゆ志とつくし人り益あり月經を通ス

○鱮ハ男子の白濁膏淋玉莖のいたみを治す小毒あり人ふ益あり

○土肉ハえ氣低ぢ

○海月ハ五臓とおり三焦の熱とる鴨と同ド



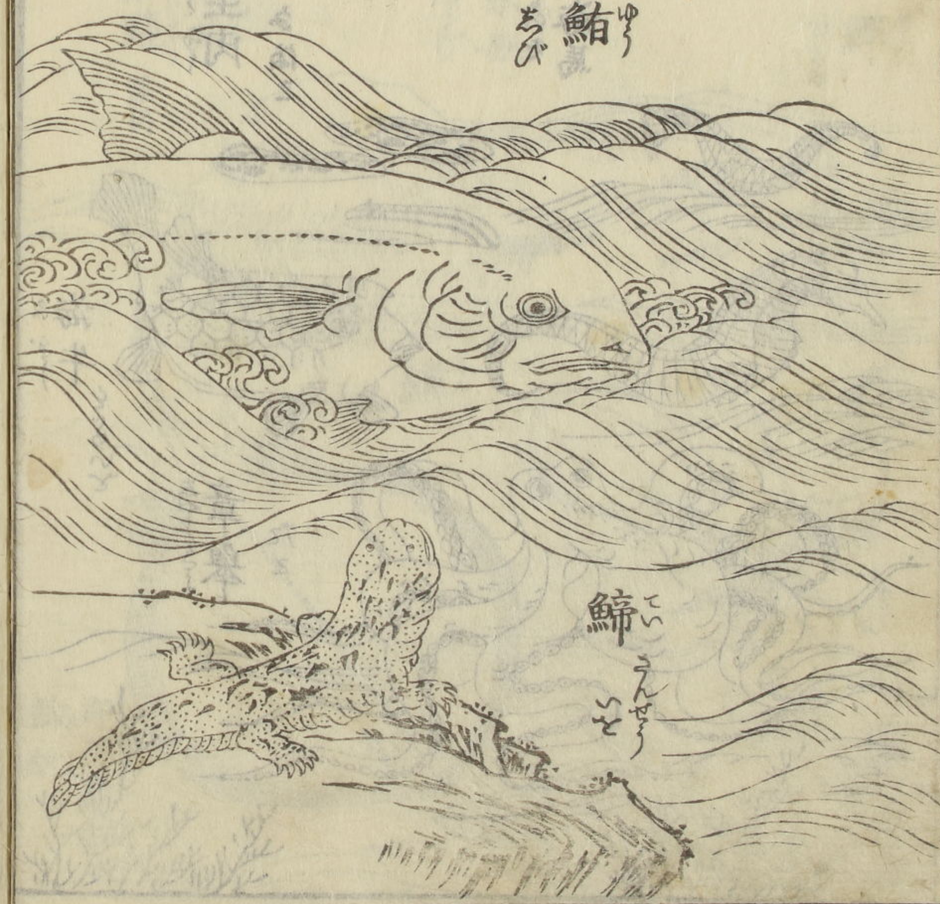

く食をべりと

○海馬ハ血氣のいたみを治し水腫をあらため湯道をさうんふし打ちを消し疔ものいむふ

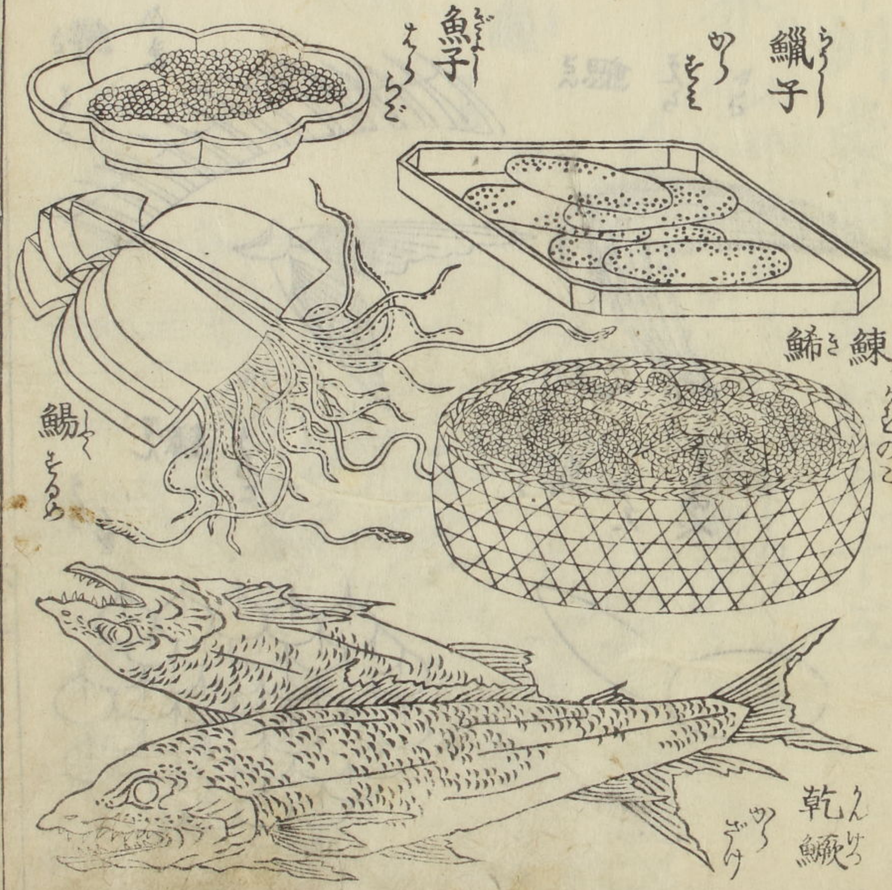
○海牛ハ功能海馬つ同じ

○章舉ハ血をやしかひ氣をまもを冷なるものをべ脾胃ハきこのハ食をべりと章魚同石鮅ハなだこ飯蛸ハ

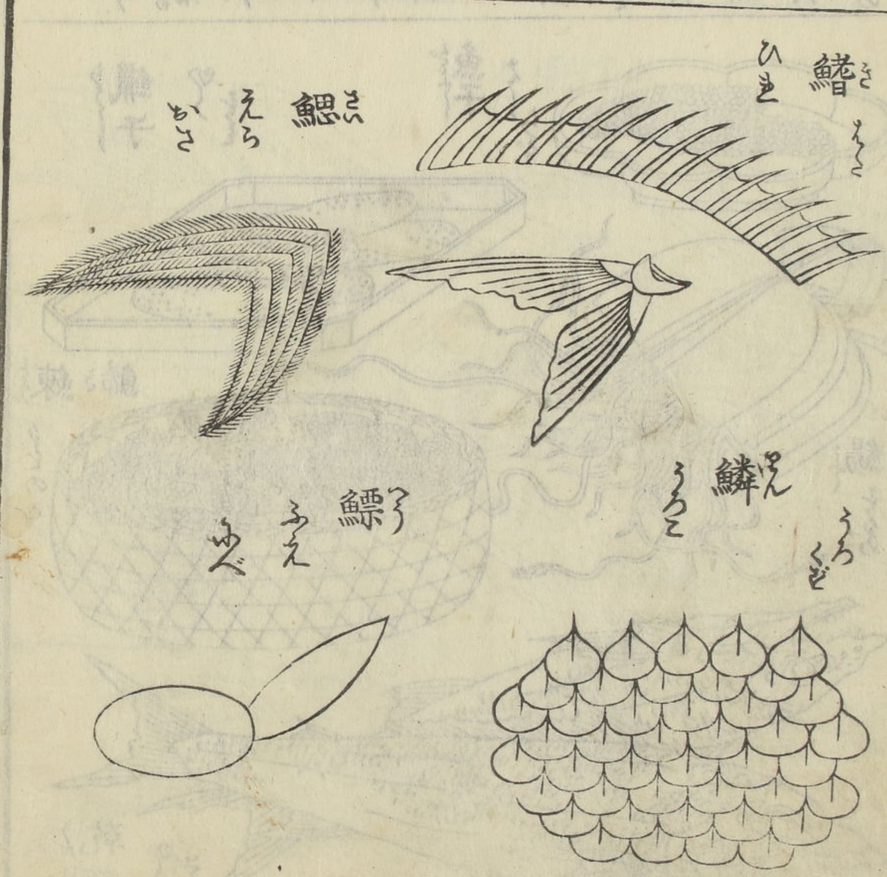
○鮪はかしらとくさ
ちてそこをのぞくふれ
たりなどののぞふ
わり大なるは七八人ばら
をあり
○鯖は疫病を治し
痕を治し虫をころを
又鯉にも書
○魚子は目のくちを
ぬぐひ鰾は鯢ふ
あるを
○乾鰤は鰤のちぢ
かるを能毒鰤を同
目の玉は煮出しにな




かつをふきまり
○鍊は鯖は鯢のまり
正月又はちくげんに用
○鰨は鳥賊のかし
たるまり能毒はふ
はし産後まとまり
○鱲子は鰡乃子
のかしらまり
○鰭は魚の脊とふ
俗ふひとふまと
とまふ髭鼠同夏は
陽氣上はあるは魚
の美味鰭まあり冬は
陽氣下はるゆは魚の



美味腹よわり
○鱗い魚龍のうろこ
かるこ鱗あることの龍
こもこが長多り鯉い大ふ
とりふせをうふ鱗の数
三十六鱗あるを
○鰓い魚の頬乃中の
骨多り俗ふこれとえ
らとふ又あるこも云
○鰾い魚の腹中にを
ふえとふ魚勝多り
勝よつろうてゆぐ云



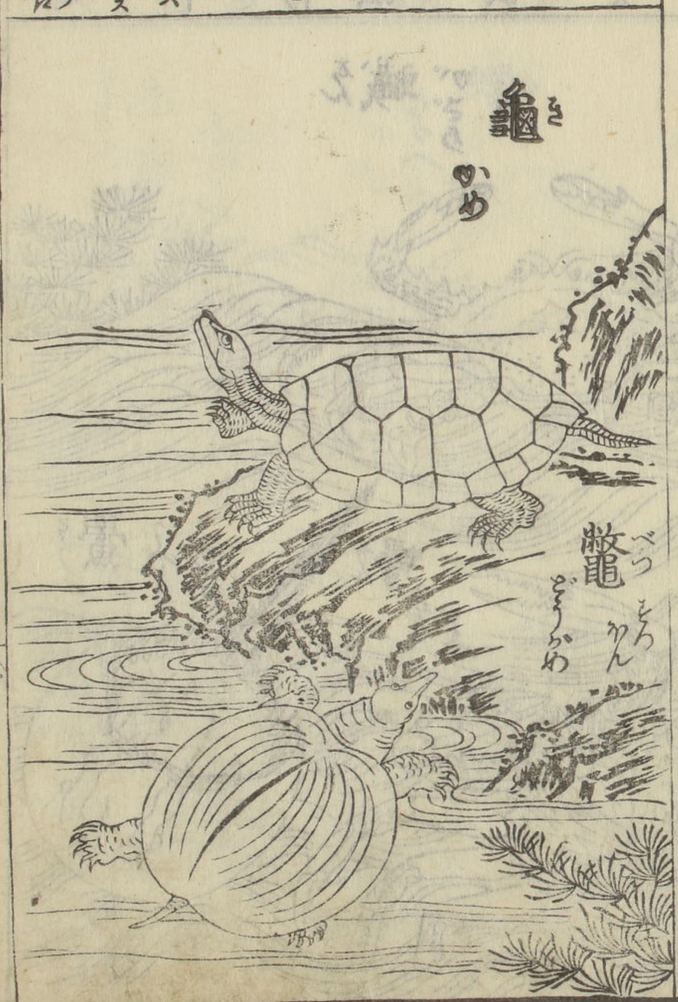



# 頭書増補訓蒙圖彙巻之十五

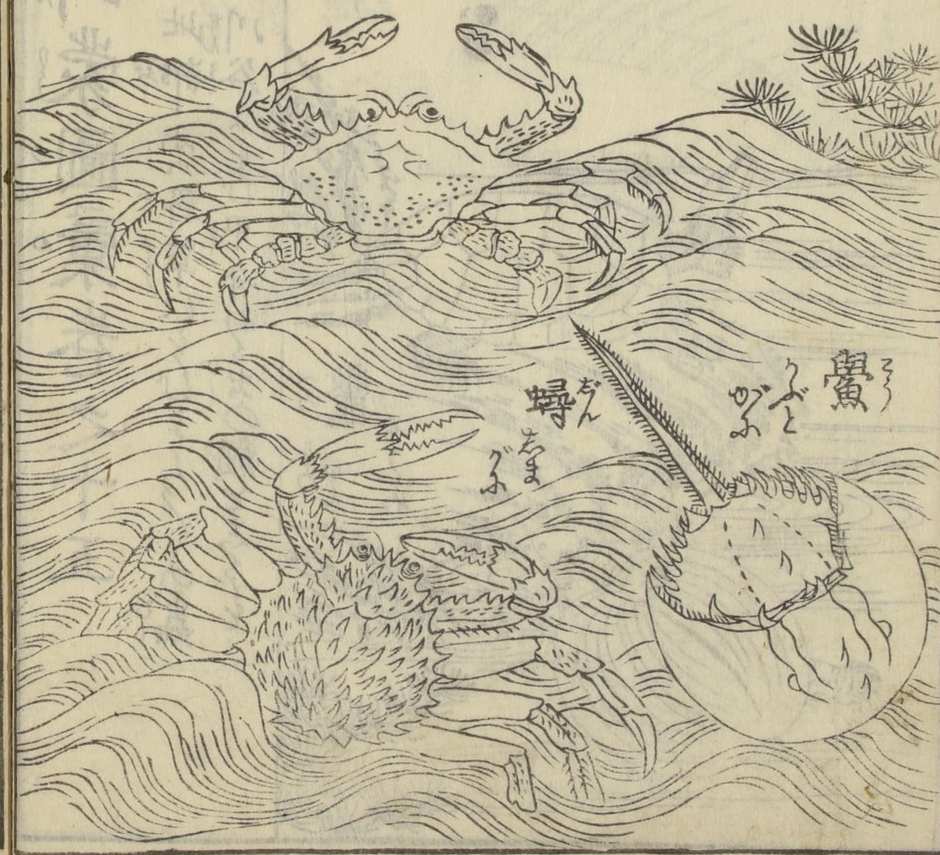
## 蟲介

此部ハ野草にとむころ〳〵の蟲川谷よりとむ甲介わる虫の類をもこと

○亀ハ四肢ひらきたること多くこるゆえ
ふ〳〵浮血血痢
とこの三十年来
の毒ゆえと治と
○鼈ハ赤血を止
陰を補ひ婦人乃
雑産腰痛と治ス
○蠶ハ痔漏と治ス
虫ところと多く含

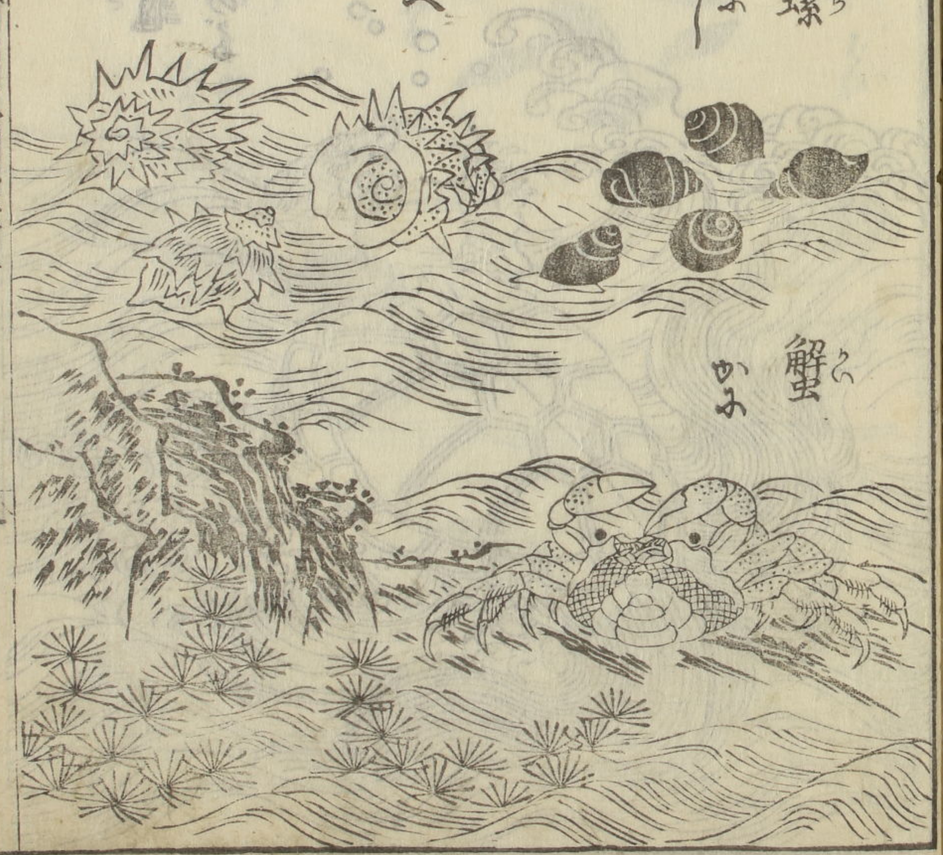


へ嗟おしび瘡紙
ちろと
○蟻い名と芳甲
とりつがざめ
○蟄い名と蟠蛸
とりつふ兒のつゝ熱
氣ふう
○螺い瘰癧結核
ひゝのこち贅氣
たそのひざり紙治
贏蠡同
○田螺いふ便と利
一目の痛を治と
○蟹い血とこんど






血とも一ゆひ氣
とも一食と消と
ゝ一ちけふちう
て分てゝ一蟄
蟒郭索同石蟹
蟛蜞わ一ふ蟹
○毛亀い陽道とた
すけ陰血とゐゞゐひ
精氣とも一痿弱
を治と
○蜥い貝紙わきら
ゆふ一水と下一
渇紙ち熱とゝう
大ふ便を利一酒毒



と解と海蠣共
螺螺蠣いるる
○蛤い五勝とうるれ
し酒とうるし胃
とひしき婦人の血
塊わし
○蛸い五臓とうる
かし胃ばをやわ
にし中と温め食
と消し陽とおと
○蜆い胃ばひしき
乳とうるし目を
わるうるふし小便
と利し脚氣酒毒

と治と
○蚌い渇とめ熱
とのぞき酒毒と解
し目ばわしうるし
帶ちふし蜂蚌同
馬刀
○貝い汁とうるし
(目のいたとと出業
に合し煮て食べば
痛と治と海馬同
○蠣い虚とおぎな
ひ癖と治し胸中
の熱いきも冷さる
○蛎い虚損と治

中てらの人ゆく
人の酒後の熱を
さまし
○鰒の精気を身
を補ふ五臓を
利し肌膚を潤ふ
○車渠は神を安し
諸の業毒を解し
熱毒わらびと同
○淡菜は虚労精を
益し腰痛痩氣帯
下にして久く食べ
人の髮ぬけ

○辛螺は飛戸遊
出ふ生にて食べ
○梭尾螺本考
法螺貝ともかく
○玉珧は巧用蚌
に同じ多く食
すきが風流ごう
を蟹蜷ともいふ
○帽貝はかさ帽
子に似て熱毒は
いまだつまびらか
らず
○海燕は石蠣よ

てうまを多くいれ
汁に煮てくべし
一名陽遂足又
海盤ともいふ
○寄蟲は顔色を
変じ心志をうば
ちうを
○海膽は能毒を
だつするのうをし
○郎君は婦人の
をんざんふるをふせ
もまいうまる酒の
中へ入うべし

帽貝
海燕 たこのまくら
寄蟲
郎君
相思子 同
海膽

○螢は腐草又は
爛竹の根化して
かうとなる又の
大火と氣とをうけて化
をとろくをしうまる
○蚕は蟋蟀とも
蜻蛚ともいふ其の
蝗に似て大なり補又
の末よりいづる
○螻は土中の泥ふ
をもむをかくふゆ
一名土狗又は石蒜
ともいふ
○蟷蜋はいかむし

螢
丹鳥 蠅々同 蛆螢
蛬
螻
蟷

足仲反にはさどいら
ろくれい臂とろく
○絡線いきりぐ
とともい一名貽
々児いぐとい
此くひなり
○螇蚸ハ一名蟿
冬蟲といくく
むし俗ふちゃう
つくむし
○竈馬ハ一名竈
雞とくち丸
脚长し竈のか
ちろちふちむ

○蜻蛉ハ六足四の
つばさ長生とと
んでむし俗とり
喰ふ補ふ大きるとやん
まとつふ
○赤卒ハとんぐう
の足赤さりのり
俗よわるちんまとと云
黒やれふして喉痺
を治を
○蟲冬蟲ハ稲ふ生
を螽同
○蟶蟒ハ一名冬蟲
斯いみごに沙くり

○蝶は蚕化して
あるゝ麦化して蝶
とする風蝶はあげ
て胡蝶蛺蝶野
蛾同
○蠅は糸足ふて縄
とるゝふてちとゝと
よりて虫てんふ亀の
字とゝく爛灰の門
よりこはど
○金亀は大さ力豆
のごゝ〜夏蔓草
乃中にはど
○燈蛾は燈とゝ

ふと蛾蛾とも燭蛾
もふひとりむし
○馬蜂は蚕の大さる
ものゝ〜ゝ〜ろ〜
○叩頭はとゝろ
ひとりもつゝ虫
ともつ
補
○蛤は七月のまよ
ゝまとを声雲風の
吉のごゝ〜廣野ふ
はど
○金鐘は名金鏡
児とも月鈴虫とも
いつゝり

○鑾金虫いろく声く
つゝの者ハ[illegible]
て名づく
○斑蝥いんふ大毒
なり 斑猫とも書
○絆蝥ハ水上ふ死で
虫となる 絆蝶同
○朝髪ハ名天牛
ともいふ髪髪とく
ひきる目の形ふ二
角あり
○蓑虫ハ名木螺
結草とも
○蜂ハ腐菌化し
てする毒尾よあり

蜂のごゝろを蜂
といふあり
○壇蚕いろふして木
中あて木ふ茅ふ
くゝふ本ふて蝸
とゝふ茅とくゝふ
蠋といふ
○蟢ハ[illegible]
ふあり蝍蛸同
○蟬ハ地虫化し
てする口をつして鳴の
んで食ひど
○蝸ハ池澤草樹の
ふ[illegible]ふ生とゝ[illegible]螺

て仰く色白く角あ
○虫は大なる紙本
虫としつてさ紙
ゆく多く孝子虫と
いへりてあづく
○蛾は春蟲化して蛾
となる蛾蛾の形也
○蠮螉は土もち又
蜾蠃も細腰蜂と
も蒲芦もまた俗
名仰蛾蜂
○氣螫は一名行夜
つぶさ短して孝く
飛也

○蚋は田野小せし
面の前後に飛で人
の肌とさを其わと
愈くう
○蚊は子々虫化して
なる豹脚はやぶかん
○子子はなり水
ふりてまど化し
て蚊となる一名釘
倒虫
○蛙は惣名なりね
ども色ありて背ふ
級く長成るづと云
なく孝色なり水

中に住み色青きを
あまがへるといふ色赤
きを赤がへるといふ
色と小見ふ合色
めでう
○蝌蚪い蛙のこ
水中に生ず蛞蝓
活東並同
○蛭い大なる牛馬
蛭といへども人の血
をすふ
○蠻蝮いろちひさ
でふ似て色黑し
人の新ふるすを

蠻蝮
ちさみむし
蛛蝮
蝮夾同
蜈蚣
ひうで
蟾蜍
蟬衍蚤同
蚰蜒
げぐ
百足
蝦蟆
かへる



び人ゝ紙を
○蜈蚣ハせなかの黑く
みどり色足赤く
腹黃ありさゝれる
人か烏鯨の尿ふ
大蒜とあるべし
○蟾蜍ハ腹白く黑
き紋ありせなかふか
んぎあり油紙蟾
酥とゝ葉ふ用ゆ
○蝦蟇ハせなかふ黑
點あり身ふにて
よくなどる化しく
鶉とある

蚯蚓
みみず
蟻
ぐ
蛆
蠐螬
糞蛆
蛭
蚰蜒
蟻
蚤
蝨
蟻

○蚰蜒はむかでの
て足長し毒あり
人の耳に入るは
殺脳とふき入べし
○百足はやさ七八分
足黑し足百ありて
一名馬蚿
○蠓は蚊ふうつく
せし陽炎にて死
蠱ぐるに時は風吹
春ぐるきしるしに
蚊ふる
○蚘は人の腹中にあ
なぐる虫なり蛔同

蜘蛛

土蟲

蛣蜣

蟷蟲

水蚕

木虱



脾胃の湿熱より
生ず
○蛆は腐肉のわづ
にはぐる魚鼈畜獸の
肉のうちに生ずる蛆
の中ふもるく蠅同
○蠐螬はうちゝ蟹の
ぶゝ樹根又は養蠶
土の中に生ずる身は
くゝ又白し蠐螬
同又ふく黑きあり
○蚯蚓は雨ふるべし出
たるとたい病なり
○蜈蚣は名蠭蝑

水馬

蝌蚪

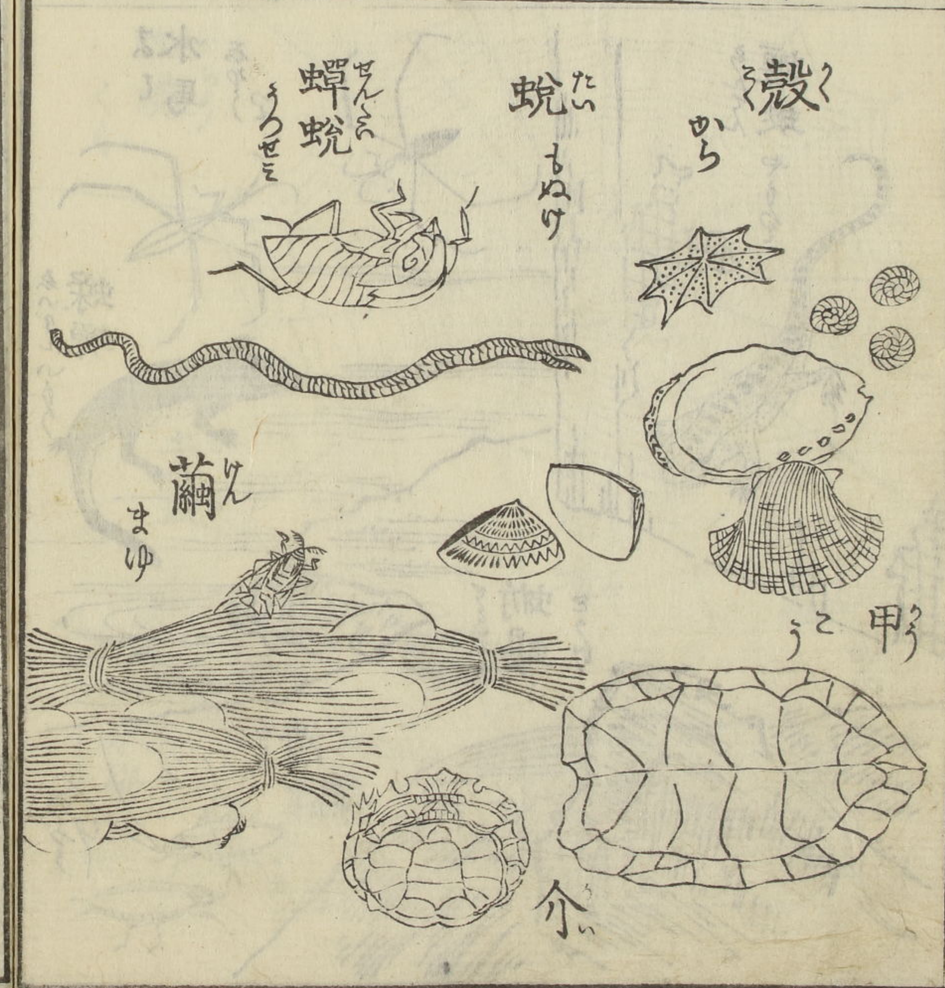
蝘蜓

蝘蜒

蜥蜴

滑虫

虫といふ又い亂婦
ともいふ
○蟬い書中の白魚
なり一名蛸と云俗
に壇魚といふ
○蚤い床下去中る
ものと
○虱いふの身ふとく
紫ふもすくふ毛ふも
ふくらかなり
○蟻い大多ふ公蚍蜉
といふ小と蟻といふ
つて君臣の義あり
故ふ義の字とつく




○蜘蛛いぢよらうぐも
と名蜘蛛といふ是ふ
らもと蟢子といふひら
しの大昊くもとそ
わくふひもとび出せり
○蝨い系と吐虫なり
三ちび俯ーー三ちび
紀二十七日ふーて老
黄帝の元妃西陵
氏始て替蚕とやー
ふつて糸公作
○蛣蜣いふく糞土
とうつて糞とあと
糞虫同

○土蟲は蛭のごとくして
黄色の頭耳ありこれ
俗にみゝ紀蛭
と云ふ此虫大毒あり
○木虱は木行の生
ぜし虱なり黄赤
黑赤有り壁
虱同俗にいふたかと
○水蚕は一名水蚯蚓
と云ふ湿地の土中に生
ずるなり目脂に
つけくらし
○水馬は一名水黽と
云ふ水上にあるく水

かるもぐらなり
○蝼蛄は一名土狗
○螻螘は水中に住
ずるなり黑く腰赤く
四足あり
○蝦蟆は一名守宮
と云ふ虫と称して宮
女の臂ふれるを男
と犯すことあるべし
なるべくれどげどろ
て守宮と云ふ壁虎
蝎虎並同
○蜥蜴は土中にすむ
毒あり石蛇子山蛇

ゑみしびふ同

○滑蟲一名蜚蠊

といひはどのをそ家

補 羽あるそ家に生ず

○殼蚌螺の類のこ

の類を蛤のりと云

肉粉とい薬と活もと

いのちを紙甲香とも

厭甲とも書なを殺人

類の貝のこと石決明と云

同の痛と活もちぢとも

又かき貝のこと牡蛎と

ちぢくとも益子とも

○蛻い蛇蛻ゝ虫のきぬ

なるも蛇皮ゝ蛇退と云

黒焼ふて酒中で用ゐ

き八雑産ふ

蟬蛻ゝ蟬退とも柘蟬

ゝ粉ゝて酒中く

ゝ死耳なを汗を活を

○甲ゝ亀の甲ゝ

かゝゝ亀とやゝて甲乃

紋とゝて吉凶とゝ

ゝ手ゝ足と亀

トとゝ又茶ゝ用ゐ

き胃ゝ補ゝ癈血

と消と又鱉甲癈

血と散ゝ腫と消と

介ハ蟹の甲なり○繭いとをひて眉とはそせ綿とる蠶なり○蛸蜘一名黒髭虫とハ
木にはぐくみとさせびをきてし○蚨蠖ハ樹上ふせぐ行こと指ふて尺とるごとし○豉蟲ハ一名豉母虫と
いハ水中にはぐくみ黒くハ○蛞蝓ハ二角あり蝸牛に似たり一名土蝸とハ○螻蟻ハ土窟の中に
をり一名蛛蝎とハ赤きハ有○壁錢ハ壁戸のろふれ二名壁鏡とハ菓と壁繭とハ
○蠅虎ハ一名蠅豹とハ蠅蝗蠅豹並同○雀瘧ハ一名蛛蜥房とハ小の菓あり○螵蛸ハ
木の枝にあり一名蟷蜋房とハ小さきのこと○蜂ハ蛇の大なるものあり深山廣野にすむ人と
のひとり○蛇ハ草中にをりて蛙と食を蛇ハ惣名あり○蝮ハ蛇ハ似たれども黒茶色あり
ちとうひ黄ふかしら大ふとりと毒ふかしくくとさとをハいえをとも反鼻蛇とも○烏蛇ハ
身黒くひとり頭ふとく眼わ〳〵ハ烏梢蛇とも黒花蛇とも○銀蛇ハ長さ一尺ばかり一名
錫蛇又金蛇とハ○両頭蛇ハ一頭ハ口目か〳〵色とまれば不吉あり一名越王蛇とハ○岐首蛇ハ首
ふて岐ある蛇なり○板首蛇も書こふ毒あり觸色〳〵ど○蜃ハ飛蟻あり朽木ハ生ず
○吉丁虫ハせるみどりにぐとのぶ〳〵此虫とりて身ふぶきハ人と愛〳〵媚ふむ○芋蠋
芋の葉に生ず○蛞蝓ハ木の葉をはじて枝と食枯と○蛬虫ハ茶の中に生ず俗ハ
こんろぎろ○蟻蟻ハかつれひ〳〵頃の和名抄ふんへり

# 頭書増補訓蒙圖彙巻之十六

## 米穀

此部ハ五穀の類をべく
くひ物乃ものひと記を

○粳ハ氣をま胃の氣を和
中と補ひ腎精をま腸胃をた
○糯ハ中をわくめ氣をま脾
胃をわくめふ便をちぐめ虚
寒洩痢をとむ
○粟ハ腎氣をやしなひ脾
胃の熱をさりふ便を利し
反胃を治を
○稷ハ氣をまし不足を補ひ
熱をのぞく中を安く胃を利
し血ぶをぞきり暑ぶ解を
○稲ハ禾同かてハ

稗いなび　苗いなえ
苗代ともいへ

○稗い中をおさまひ氣をたすけ腸胃をあつくし飢をとゝ

○麥い虛をおさまひ血脉をさうんゐ五ごう紙実し新ものを益

○蕎い腸胃を実し気をとゝのゝ積滯を和し熱腫風痛を消す

○菉い食を消し氣をくだし熱をさり毒を解し小ぶんを利し脹滿泄痢をつゝまる

○麻い女人經候通ぜをけんがう金瘡門持を治し悪血をさる

○豆い氣をまし腎をかぎやひ胃ふをやうふし五ごう紙和し小便をしげうふもむ

○豌いふ便を利し脹滿をたすけさう清湯ふ治し吐逆を治す胡豆蹕豆からびふ同

○菽い水腫を治し悪血をさんゐ脾胃をたすけし酒病を解し胃中の熱をさる

○苔は水氣を下し濃血をもつて小便を利し脹滿消渴を治す

○藕は中を和し氣を巡らし咽をやめ入ざうとあざなひらくらん酒毒を解す扁豆 籬豆 眉豆 かなびふ同

○胡麻は氣力をまし肌肉を長し筋骨をつよくし大小腸を利し耳目をあきらかにす

○嬰粟は風毒をさる邪熱をあい疼を治し反胃を治しかわきをとゝのへ

○蠶豆は胃をとゝのへ脾胃を和す一名胡豆 蚕豆 おづく

○玉黍は氣をまし中を和し腎をとゝのへ小腸を利す

○蜀黍は中を和し腸胃をとゝのへ腸を治す蘆穄 萩穄同

○刀豆は中をあたゝめ氣をくだし腸胃を利し元氣をとめ腎をまし元をあたゝめる

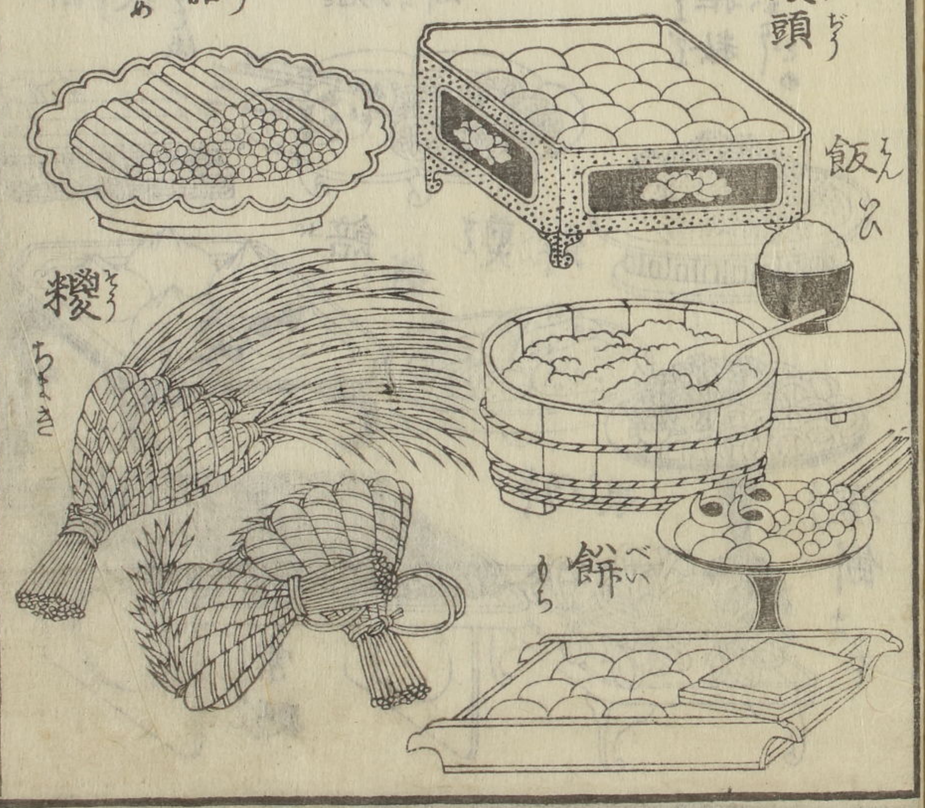
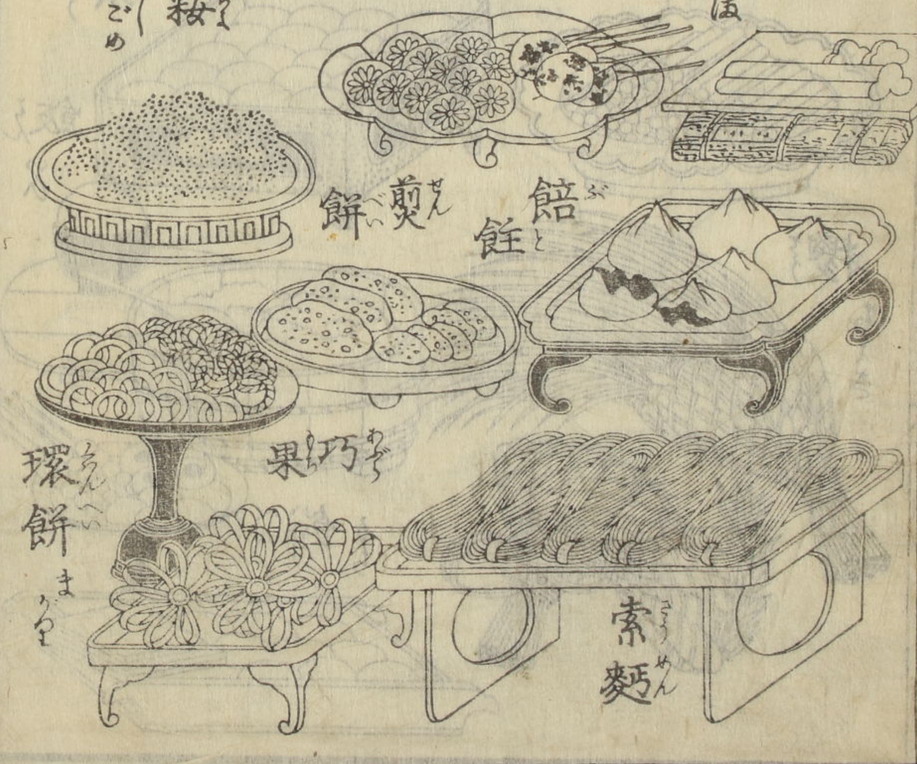
○黎豆は中をとゝのへ胃をまし小便をつうじ貍豆

虎豆なくびに同
○燕麥いわまく平どく
なし　飢とをひ腸をか
めくふを一名雀麥とふ
○穂いねのかわり芒を
のぎ　秕ぬかをせ今按ぐ
ふみよさ
○藁こもかり禾稈禾
穰稲草かびる同稈
心ずいちべ稭黠秸並同
○穀もみ　禾麻粟麥豆
あまめ五穀とふ種を
たね　稃ぬかをもみぬ
○莖いまわらかり蕣同
魏の曹植詩ふつくもり

○莢いまわらかさやなる
豆角かり藿いまめれて
かり馬こまくふくふ
○饅頭いりとい肉餡とも
ちひし　菓かり小豆餡
のりの以素饅とふ餡
かたりのと蒸餅とふ
今い新製品くかり唐
饅頭かひい羹餅饅
頭ゆでふりのかり
○飯いひかりふめし
強飯いこわひ赤飯いかぐ
きめし　乾飯いかりしひ水
飯い湯づけめし　麥飯い
ひきぐめし　粟飯いあわめ

○餅いもち麪餅なり
糯い粉餅ゆう團ふなり
飯團いひとうもち栗餅を
ゆうもち艾餅ゆうもち
○糖いわめなり飴同濕糖
いとるわめ錫いわめあめ也
とうふ老人とうしゆう
一種也黄蕷と名づる
のを當時葛月に專
小児ふ用也
○糉いちまきなり粽同
角黍とゆう楚の屈原よ
ぶとうしまつ事とゆう
古い葦の葉にてつゝみ五色
の糸ゆて結ぶ今用

ゆる笹の葉い腰中によ
ろしめどとゆう能くわく
けれ出しとゆうなり
○索麪いひぎりめんなり
一名索餅とゆう温飩
蕎切冷麦ひやむぎなどゆうもとを
べて麪類とゆう
○餡餅い俗よ伏兎とゆう
つとあげの餅ゆう油
堆とゆう
○環餅いまがりとかりわぶ
らあげの菓子ゆう櫻
餅膏とも櫻寒具とも
ゆう巧菓わぶらもち



○酢漿いとも長かりしを載とも書べし俗に溯漬
とゆくなり
○焼餅い餐とも書べし
串にさしくるをこがくとつく
又るのくるにつくりて鶏
やきと名づく
○粔籹いとこがめかり擂
とつくて餡ゆくゆくあるを
ちるを俗に奥米とりけを
かさと餡おこしとつひかと
わるを岩おこしといふ
○煎餅い餅とのくゆく
煎わづくるかうス銭
餅とも書べし